

建築士 やまなし

No.85

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



建築文化賞受賞作品
丹波山村役場
(公共建築物等の部門)



建築文化賞受賞作品
認定子ども園
ウブントウ
富士の森
(一般建築物等の部門)

● 目次 ●

年頭のごあいさつ	山梨県建築士会会長 長田 正彦	2
日本建築士会連合会長表彰を授彰して	甲府支部 河野 広	3
日本建築士会連合会長表彰を授彰して	甲府支部 佐々木幸一	3
日本建築士会連合会長表彰を授彰して	甲府支部 松野 範子	4
第65回建築士会全国大会「しずおか大会」に参加して	甲府支部青年部 中澤 雄一	4
県民の日記念行事への出展	青年部会副部長 平井 昌吾	5
「建築士の仕事講座」	甲府支部青年部 齋藤 啓文	5
第65回建築士会全国大会「しずおか大会」に参加して	女性部会 星野 幸美	6

令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会石川大会に参加して	女性部会 田邊 佳子	6
第7回山梨県建築士の集いへの誘い	実行委員長 小林 弘幸	6
住宅の近代化と伴に変わる鳥獣空間	甲府支部・日本野鳥の会事務局長 小林 美博	7
令和5年度山梨県建築文化賞受賞作品決定		8・9
スポーツ大会	大月支部支部長 溝呂木克人	10
令和5年度山梨県地震防災訓練(中巨摩支部被災建築物応急危険度判定訓練)	事務局	10
県からのお知らせ		11
会員の動静		11
編集後記		12

年頭のごあいさつ

一般社団法人 山梨県建築士会
会長 長田 正彦



2024年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。まず、元日に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。今後は、一日も早い復興に向け、当会といたしましても、関係機関と連携を図りながら、でき得る支援を行って参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、昨年はウクライナ危機や円高が進行する中、10月にはパレスチナ・イスラム戦争が勃発するなど国際情勢が不安定化した1年でありました。国内では、夏の平均気温が過去最高を記録するなどこれまでにない猛暑の年となり、建築分野におきましても、脱炭素社会の実現に向け、省エネ対策を始めとした地球温暖化対策の更なる推進の必要性を再認識したところであります。

そうした中、建築業界におきましては、建築資材の価格高騰により、建設コストの安定的な供給が見通せない状態が続くとともに、売り手市場が進み人材確保が一段と難しくなってきたことを感じた1年でありました。更に2024年度は、働き方改革の労働時間の上限規制が建設業にも適用される初年度となります。こうした建設業が抱える課題の解決に当たっては、業務の効率化や処遇の改善、ICT技術の有効活用など更なる働き方改革を推進するとともに、教育機関と連携して将来の山梨の建築業界を担う人材育成を積極的に支援することで、適材な人材確保と良質で安定した建築物の供給に繋げていくことが重要であると考えます。建築士会の諸事業におきましても、少子高齢化やIT技術の進展等により、建築士を取り巻く環境は刻々と変化しています。今後は、喫緊の課題である会員の増強対策に加え、コロナ禍において普及が進んだ各種申請等の手続きや講習会のオンライン化など、時代が要請する変化を適時適切に捉え、業務改善などの必要な対策を講じて参りたいと考えております。

次に、災害に対する社会貢献活動についてであります。昨年は関東大震災発生から100年の節目の年にあたり、各地で、教訓を後世に継承するための様々な防災イベント等が開催されました。本県におきましても、これまで諸先輩方が築いてきたご尽力等により、官民が連携した防災意識が地域に根付き、応急危険度判定士の伝達訓練のほか山梨県地震防災訓練における応急危険度判定の実地訓練等が定期に開催されるなど、有事に備えた体制整備とその維持が進められてきています。当会におきましては、災害に備えるべく新たな取り組みとして、昨年9月に、近年激甚化する風水害等を想定した「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」講習会を開催したところであります。今後も建築士会といたしましては、地震に加え風水害等の激甚災害等に対しても、連合会と連携しながら防災に関する知識の普及啓発や技術研鑽等を行い、非常時に建築士として社会貢献ができるよう、平時から取り組んで参る所存であります。会員の皆様におかれましては、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、昨年まで猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症は5類感染症へと移行し、本年は講習会や親睦行事を始め、委員会・支部・青年部会・女性部会等の諸活動を通じた会員相互のコミュニケーションの機会がほぼ完全に再開される見込みです。皆様にとりまして、この新たな年がより良き年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



甲府支部
河野
広

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

この度、日本建築士会連合会長表彰を賜り、これも長田会長をはじめ事務局・諸先輩方のお導きのおかげであると、深く感謝申し上げます。

仕事の傍ら、青年部時代には秋葉原に入り浸ってパソコン黎明期を謳歌していたのですが。士会活動を通じて多くの会員の皆様と接する機会に恵まれ、さらにパソコン通信（インターネット前のデータ通信サービス）という情報交換手段を得たことによって、全国の士会会員や異分野多くの方々との交流を得て、様々な事にチャレンジする事が出来ました。

建築士会連合会のBBS（電子掲示板システム）を始めとして、日本初の建築関係ネットワーク「アーキネット」へ参加し、建築とコンピューターの黎明期とその発展を目の当たりにしたり。富士通と日商岩井が始めた「ニフティーサーブ」に、サブ・シスオペとして「建築フォーラム」の立ち上げ・運営に携わったり。

無謀にもAppleのマッキントッシュ（MacPLUS）とMiniCAD（現VectorWorks）に挑戦した事からか、建築知識やCAD&CGという雑誌にCADやパソコン関係の記事を書かされたり。片や、士会連合会の情報部会に参加する機会をいただいたり、等々。と、様々な事に関与出来たベースには、やはり山梨県建築士会の皆様との活動を通じて情報や意見の交換、何より暖かい交流をいただけた事があったからと思います。

現在は仕事を行う傍ら、甲府工業高校建築科で非常勤講師として、後継の育成に協力させていただいております。そしてこれからも、この表彰に恥じないように努力・精進して行きたいと思いますので、今まで以上に皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後に、山梨県建築士会の益々のご発展と会員各位のご健勝を祈念申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

この度は、日本建築士会連合会長表彰を授彰し光栄に存じます。長田建築士会会長はじめ、理事の皆様、会員の皆様、そして事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成7年（1995年）に一級建築士の資格を取得し、建築士会にお誘いいただき入会しました。現在は福祉委員や甲府支部副支部長を務めさせていただいており、とりわけ例年実施される被災建築物の応急危険度判定伝達訓練には、特別な緊張感をともないながら参加をしています。これは、資格取得の年が阪神淡路大震災発生の日であり、自らが京阪神地区で現場勤務をした経験から特別な因縁を感じているためです。

表彰の際、賞状とミケランジェロのレリーフレプリカの楯を受け取りました。楯に添えられた葉には、故井上信道さんのメッセージ「苦悩と人間性の前進」が記されており、今後も努力せよと言われていたようで、心に刻んで行動したいと思います。

今後は謙虚に学び、貢献をして行く所存ですのでご指導賜りたく存じます。

結びに山梨県建築士会のさらなる発展と、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



甲府支部
佐々木
幸一



甲府支部
松野 範子

日本建築士会連合会長表彰を授彰して

この度、日本建築士会連合会会長表彰を賜り、山梨県建築士会会長、事務局の皆様、これまで支えてくださった多くの方々にお礼と感謝の気持ちを申し上げます。

私が建築士会に入会したのは、山梨県内で建築士会女性部会が創設されて間もない時期でした。当時は今と違いアナログ時代でしたので、建築にまつわる法改正などの情報、建築士同士の縦横のつながりなど、建築士会に入会していたことで大変助けていただきました。特に女性部会では、諸先輩方に教えていただくことが沢山あり、建築についてはもちろんですが、やはり人生の先輩としてありがたい言葉をかけていただいたことは忘れられません。

私自身は女性部会に入会し、幹事になり、副部長になり部長をさせていただきました。また、20年に一度回ってくる関東甲信越ブロック会女性建築士連絡協議会の会長を引き受けることになり、大変不安がありましたが、周囲の皆様にご助け支えられ無事に任期満了することができました。皆様のご協力があったからこそ、未熟な私でも乗り越えることができた大変感謝しております。

入会当時のアナログ時代と現在のデジタル時代。情報はどこでも手に入る時代にはなりましたが、人と人とのつながりは、同じ温度を感じる空間のなかで生まれるものではないかと思っております。女性部会の諸先輩方にいただいた、温かい心や、気遣い、軽やかな思考などを私の栄養にして、これから建築士の道を進む後輩たちに少しでも恩返しできればと思っております。

青年部

第65回建築士会全国大会「しずおか大会」に参加して

甲府支部青年部
中澤 雄一

今年度の建築士会全国大会は、令和5年10月26日(木)から28日(土)の3日間、静岡グランシップをメイン会場に開催されました。大会テーマは「歴史と文化の継承～ローカルに生きる～」です。

私は今回はじめて大会へ参加し、青年委員会セッション(地域実践活動発表会)にて、全国の同世代の建築士達が地域とどのように関わり、何を意図して活動しているの

かを知る機会を得ました。

発表された活動報告は、各ブロックを代表する秀逸な活動事例であり、地域や市民・学生とつながる催しの試み、士会会員増強を目的とした活動、次世代育成を目指した職業体験講座、空き家を活用した高齢者と学生のホームシェア、防災を主とした街歩きなど、多岐に渡るテーマでした。

どのブロックのテーマも昨今の日本各地・共通の課題であり、皆同じような事を考え日々活動しているのだと実感しました。

テーマは違えど共通しているのは、私たちが普段生活している中で、一度は目にしたこと、耳にしたことがある時事の問題に対して、仲間たちで話し合い問題点を共有し、試行錯誤を繰り返しながら発展・拡散させている点だと気がきました。現在青年部では、「建築士の集い」の開催、「建築士の仕事講座」、工高生製図技能検定の採点や県民の日記念行事への出展など、様々な活動を行っています。

活動を継続していく事の大切さ、積極的な意見交換や情報共有など、コロナ禍が終わり、コロナ前の生活に戻りつつある今、地域や学生・子どもたちとのつながる役割を担う青年部の活動にも積極的に参加したいと思います。一緒に活動して頂けるメンバー募集中です!



県民の日記念行事への出展

青年部会副部長
平井 昌吾

昨年の秋、県民の日記念行事が開催され10月7日(土)は富士吉田会場、11月19日(日)は小瀬会場にて、青年部会で出展しました。以前は「折り紙建築」を子供たちに作ってもらっていましたが、昨年より「ストローハウス」を作ってもらう体験イベントを実施しており、この日も多くの人に訪れてもらいました。

まずは会場を歩く方々に声をかけ、配布物や展示している作品を見てもらいました。子供には一緒にストローハウスを作ってみようかと促します。朝のしばらくは人も少なかったものの、10時頃からは「ストローハウス」を作る子供達で席は埋まりました。

親御さんも含め、お子さんにストローとクリップを使い立体を作る手順を説明すると、感心していただけます。簡単な材料で安定した構造体ができるのが面白いのだと思います。また筋交いを入れるという構造的な要素や四角い形だけでなく、三角や星型などの多様な形を作れるという自由さも興味を引くのだと思います。

お昼の頃には席が足りず並んで待つお子さんもいたほど盛況となりました。様々な作品が出来上がるのを見て安定した構造体に理解を持ってもらえた事が実感できます。特に家の形をつくる場合、筋交いをいれた立方体の上に四角錐を形づくるのですが、それぞれの部分を床、壁、屋根と呼び、あたかも建築をしているような達成感を味わってもらうことが出来たと思います。子供の作品ができあがった時に拍手をして褒めて喜んでいる親御さんも多く、そういった楽しい瞬間のお手伝いができた事など、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

こういった学びある機会に青年部として活動することに感謝しています。そしてこのイベントでの体験をきっかけに、建築に興味を持ってもらい将来建築士を目指す子供が現れることを願っております。



「建築士の仕事講座」

甲府支部青年部
齋藤 啓文

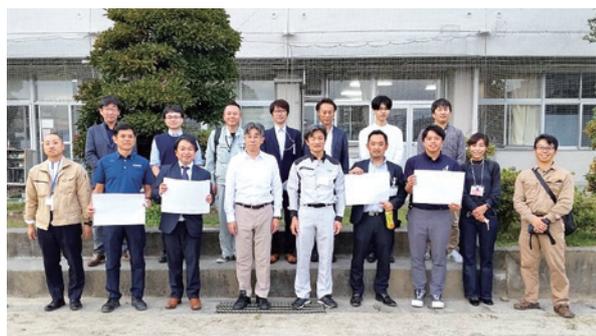
昨年度まで山梨県生涯学習推進センターで実施していた職業体験講座「建築士のしごと」ですが、今年度はお声がかからず開催を断念していました。しかし、未来の建築士をつくるため、開催を諦めきれない岡さん(甲府支部青年部長)が直接中学校に売り込み、笛吹市立春日居中学校に出向いて開催することになりました。対象は中学二年生の84人、約2時間で座学と製図体験をしてもらうという詰め込んだ計画のため、不安を抱えながら当日を迎えました。

講座の前半では、建築士の資格や仕事内容、建築士になるための進路などについて説明しながら、建築士のしごとの魅力について伝えました。後半では、「周辺環境・景観に配慮した、家族のための店舗併用住宅」をテーマに、設計製図に挑戦してもらいました。

設計製図は、最初は照れがあったり、進め方が分からなかったりして、なかなか手が動かない生徒が多かったのですが、アドバイスをすると、集中して図面を描くようになっていきました。短い時間のなかで、図面を完成できた生徒は少なかったですが、真剣に取り組む姿を見て、とてもうれしい気持ちになりました。

受講後のアンケートを見ると、「大変な仕事だと思った」「自分には向いていないかもしれない」と考える反面、「それでも製図は楽しかった」「いつか自分の家を建ててみたい」などの多くの肯定的な意見がありました。中には「建築士になってみたいと思った」という生徒もいました。建築士のしごとの難しさや大変さと同時に、やりがいや楽しさを伝えることができたと感じています。

今回は、15名の会員に講師としてご参加いただきました。その他にも多くの方から応援をいただき、無事に開催することができました。ご協力いただいたすべての方に御礼申し上げます、報告とさせていただきます。



第65回建築士会全国大会「しずおか大会」に参加して

女性部会
星野 幸美

オールインクルーシブをご存知ですか？
海を眺めながらドリンクをかたわらに
トークに花を咲かせて、卓球や早朝のヨ
ガ体験などゆっくりのんびり寛ぎ、ホテ
ルでのオールインクルーシブを満喫しまし
た。女性部会の幹事さんが選んでくれる

宿も全国大会参加のもう一つの楽しみ。何年か前の京都大会では冬の京町屋に泊まり、古都の風情を体験したこともありました。

大会では、式典会場の磯崎新氏設計のグランシップの大ホールはとても大きく迫力があり圧倒されました。太鼓の音も素晴らしく、いつかこのホールでコンサートを聞いてみたいと思いました。また、坂茂氏設計の静岡岡県富士山世界遺産センターは逆円錐形の木格子の外観が興味深く、建物の中の展示棟入口まで来ると逆円錐形の内側がそのまま展示室になっていることがわかり更にワクワクさせられました。そして最上階の展望ホールの窓がフルオープンになっていて、窓枠が額縁となり真正面に富士山を見せる発想に感心し（この日は雲がかかっていて富士山の裾野しか見られませんでした）真正面の富士山を想像するだけでも楽しく、池に映る木格子の逆さ？富士も見てみたい、また天気の良い日に再来館したいと思いました。

コロナ禍があり、なかなか皆様にお会いする機会が少ない中、久しぶりの参加でしたが皆様お変わりなく、いつも笑顔で、仕事からプライベートまで情報交換し、とても有意義な全国大会でした。



令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会石川大会に参加して

女性部会
田邊 佳子

第32回全国女性建築士連絡協議会（石川）が7月29日・30日に「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」をテーマに開催されました。基調講演にあったように金沢駅の待合室やコンコース24本の柱には石川を代表する伝統的工芸品が多数飾られており、利用者の目を楽しませてくれます。被災地報告では、東北女性委員の方が青森から福島まで復興道路をドラレコで撮影し隣県へ繋げていく新しい形の合同報告でした。東日本大震災から12年経過した現状を見て何を感じるのか。東北を訪れてみたいと改めて思いました。

第7回山梨県建築士の集いへの誘い

実行委員長
小林 弘幸

『第7回山梨県建築士の集い』を令和6年2月23日（金・祝日）に山梨県生涯学習推進センター（山梨県庁防災新館1階）で開催いたします。

現在、実行委員会を立ち上げ、開催準備を進めています。

山梨県建築士の集いは、建築士による様々な分野の取り組みや活動を学び、交流する機会としてこれまでも開催を重ねてきました。

第1部は各支部による活動を発表する場として、地域実践活動発表を行います。

第2部は第22回山梨県工業高校生建築設計製図技能検定試験（A級）成績優秀者表彰式および甲府工業高校、富士北稜高校による活動発表を予定していますので、これから建築の道を志そうしている高校生にエールを送ってあげてください。

第3部は高校生と建築士によるパネルディスカッションを予定しており、内容については現在実行委員会で協議しているところです。

また集い終了後には懇親会を予定していますが、その席において、建築士試験合格者の祝賀会も予定していますので、ぜひご参加ください。

第7回山梨県建築士の集い 概要

日時：令和6年2月23日（金・祝日）

13:30～16:30（予定）終了後懇親会を予定

場所：山梨県生涯学習推進センター
（山梨県庁防災新館1階）

※最新情報はホームページにてご確認ください。

<https://seinen.ykenchikushi.org/yamanashi>

住宅の近代化と伴に変わる鳥獣空間 *mi*

甲府支部 小林 美博
(日本野鳥の会甲府支部事務局長)

私の父の実家は信州の片田舎。北には八ヶ岳が聳え、田園地帯に囲まれた小さな集落、屋根にはスズメ、軒下にはツバメ、縁の下には何か、何かわからなかったが何か居た！

夏の暑さ、湿気対策でそこら中隙間だらけの風通しのいい住居が多かった。

ある時叔父が「ゆ、床が上がっている」と大騒ぎ、恐る恐る床下を覗くとタケノコが頑張っていた。4、50年前の話である。

現在の住宅は高断熱、高气密と隙間がなく、縁の下もコンクリートの塊である。それによって人間に寄り添って生きてきた鳥たちの生活も変わってきた。

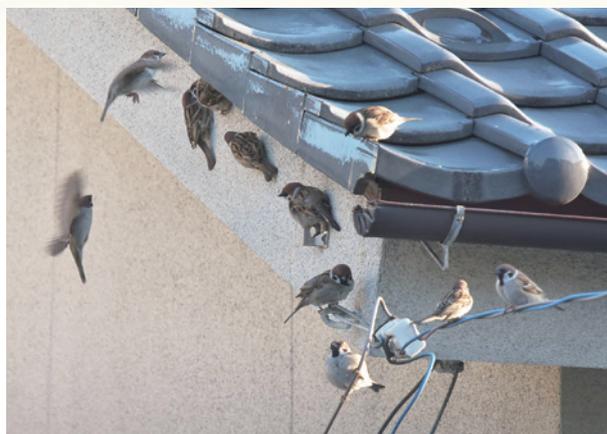
■スズメの場合

近年、スズメは減少傾向にある。要因はいくつかあるが、ひとつは住宅の近代化にある。隙間に巣を作るスズメの格好の住処は瓦の隙間である。それが今や都市部では皆無である。



スズメの好きそうな瓦の隙間

スズメたちも黙ってはいない、ありとあらゆるちょっとした穴、隙間を探して住居としているがライバルが多い。瓦の隙間はスズメたちの独擅場だったが他の隙間はそうはいかない。外灯の隙間、空き家の換気扇のカバー、プレハブのCチャンなどこんな所にもと思うところに巣を作っているが、昔の瓦の隙間の比ではない。



隙間を探して群がるスズメ

■ツバメの場合

ツバメも減少傾向にあるが、温暖化など季節の変化による方が大きい。だが、建物の近代化も影響している。たとえば、軒がない家が多く、軒がないと巣がずぶ濡れになる。ツバメの巣は土壁と同じ泥と藁で出来ているため、外壁もモルタルリシン吹付だとくっ付きがいいが、タイル、つるつるのサイディングだと直ぐに落ちてしまう。最近ではツバメも考えていて下の写真のように電気のプレートの僅かな出っ張りを滑り止めにしたたり、コードペンダントの上についたりしているが、スズメと同様に巣作りには大変苦労している。



このように建物の近代化は生

き物たちに大変な影響を与えている。

私も多大な影響を受けている。「少しくらい隙間があってもいいじゃん」などと言っている私に設計を依頼する人は誰もいない・・・

この記事は、一般公募により掲載させて頂きました。

「建築士やまなし」に掲載したい、建築にまつわる話題や記事、体験談などを募集します。

「建築士やまなし」で取り上げて欲しいテーマや、表紙に載せて欲しい自作の絵画・イラスト作品などを募集しています。寄稿の際は、500-800文字程度（必要に応じて写真1～2枚）です。また、ご覧になったご感想やご意見ご提案などをいただけると幸いです。今後の改善のための参考にさせていただきます。よろしく願い申し上げます。

令和5年度山梨県建築文化賞受賞作品決定

Yamanashi Cultural Prize of Architecture since 1990

■山梨県建築文化賞の概要

県内において、快適な地域環境を形成し、景観上又は機能性等に優れた建築物等を表彰することにより、建築文化の高揚を図り、魅力と風格のある文化的で快適なまちづくりの推進を目的に隔年で開催。

■表彰対象

県内で過去2年以内に竣工した建築物及びリニューアルした建築物等

■令和5年度応募作品

住宅建築の部門:14作品 一般建築物等の部門:24作品
公共建築物等の部門:13作品 合計:51作品

■主催 山梨県建築文化賞推進協議会

構成団体: (一社)山梨県建築士会、(一社)山梨県建築士事務所協会、(一社)山梨県建築設計協会、(一社)山梨県建設業協会、(公社)山梨県建設技術センター、山梨県

建築文化賞受賞作品

丹波山村役場

公共建築物等の部門



認定こども園 ウブントゥ富士の森

一般建築物等の部門



建築文化奨励賞受賞作品

Corn Tea House

住宅建築の部門



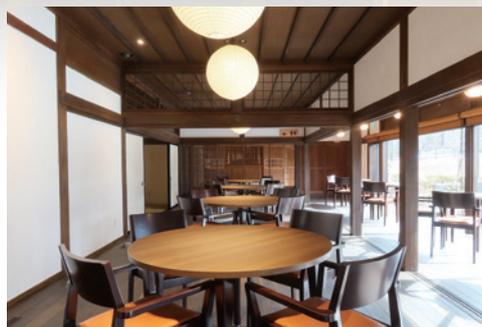
旭陽電気株式会社 葎崎工場

一般建築物等の部門



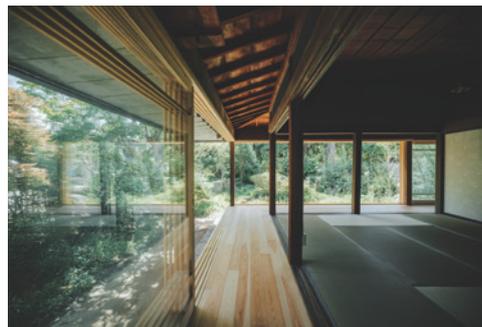
古民家カフェ KONOHANA

公共建築物等の部門



子育て支援センター 蔵 ku-ra

良好なまちなみ景観を
形成している建築物等の部門



有限会社 山田屋商店

良好なまちなみ景観を
形成している建築物等の部門



受賞作品一覧表

賞の名称	部門	名称	所在地	建築主	設計者	施工者
建築文化賞	公共建築物等	丹波山村役場	丹波山村	丹波山村	・株式会社 NHA	太陽工業株式会社
	一般建築物等	認定こども園ウブントウ富士の森	富士吉田市	株式会社ウブントウ	・株式会社 日比野設計 幼児の城	川上建設株式会社
建築文化奨励賞	住宅建築	Corn Tea House	北杜市	中川 貴裕 中川 すひ	・PDO 建築事務所	PDO 建築事務所
	一般建築物等	旭陽電気株式会社 葎崎工場	葎崎市	旭陽電気株式会社	・有限会社 NOA 環境設計	大成建設株式会社
	公共建築物等	古民家カフェ KONOHANA	富士吉田市	富士吉田市	・川上建設一級建築士事務所 ・スタジオ・ベルナ ・N設計アトリエ	川上建設株式会社
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	子育て支援センター 蔵 ku-ra	南アルプス市	社会福祉法人 ゆうゆう	・株式会社 S PLUS ONE 建築設計事務所	甲斐の匠おだぎり
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	有限会社 山田屋商店	富士吉田市	上小澤 隆	・N設計アトリエ ・建築設計室アトリエ風	株式会社 梶原工業所

スポーツ大会

大月支部
支部長 溝呂木 克人

10月21日(土)に、晴天の中、山梨県建築士会親睦スポーツ大会が大月支部の担当で支部内の上野原市で開催されました。山梨県建築士会の会員の方々、山梨県県土整備部建築住宅課長の久保様におかれましては、遠路山梨県の最東端の上野原市において頂き、ありがとうございました。また、地元上野原市長の村上市長におかれましては、公務のお忙しい中ご出席頂きましてありがとうございました。

スポーツ大会競技のグラウンドゴルフ大会は10支部巡回して、今回の大月支部の担当から3巡目となります。大月支部も、初回時には会員数80名弱、2回目には50名弱と会員数も急激に減少し、今回において会員数は30名弱で、実働できる会員は10名足らずで、全員フル稼働の状況でした。なんとか開催できたのも、会員をはじめ役員の方々、関係者の皆様のご協力によるものと、感謝しております。

コロナ感染症の流行から、2年間中止で昨年度は午前中のみ、今回から午前、午後のフルスペック開催となり、昼食も交えて親睦も図られたことと思います。

大月支部も少人数で各自忙しい中を押しての支部活動、晴天、そしてなによりの達成感!今まで以上に結束が固くなったような気がします。

今後とも、晴天で建築士会スポーツ大会が開催され、さらなる会員相互の親睦が向上されることを願って、私の御礼の寄稿とさせていただきます。ありがとうございました。



令和5年度山梨県地震防災訓練 (中巨摩支部 被災建築物応急危険度判定訓練)

事務局

山梨県地震防災訓練が11月26日(日)に昭和町で開催され、その中で「被災建築物応急危険度判定訓練」が行われました。この訓練は、県建築住宅課や中北建設事務所、昭和町職員の指揮のもと、建築士会からは中巨摩支部の秋山支部長はじめ14名の判定士



が参加して合同訓練を行いました。当日は、午前9時に昭和町役場に集合し、県担当者から座学による応急危険度判定の講習を受けた後、町内の判定会場に移動して、古い木造家屋の応急危険度判定を実施しました。



判定作業は、2人1組体制で判定手順を確認しながら、行政が常備している判定用資機材を用いて、目視による屋根・外壁・基礎等の構造体の状況や落下物の危険度などを調査するとともに、下げ振りによる建物の傾斜等を測定することで総合的な危険度を判定しました。判定結果は「判定調査表」に記入し、所有者等に建物の危険性を周知するため、「調査済(緑色)」「要注意(黄色)」「危険(赤色)」の3種類に色分けされた「判定ステッカー」を建築物の目立つ場所に貼り判定訓練は終了しました。中巨摩支部の皆様、大変お疲れ様でした。(※ 来年度の訓練は「身延町」で開催予定です。)